

## SB38 サイドイベント傍聴報告

2013年6月14日  
一般社団法人海外環境協力センター (OECC)

本傍聴報告は、2013年6月3日～14日にドイツ・ボンで開催された国連気候変動枠組条約第38回補助会合 (SB38) において開催されたサイドイベントの傍聴報告です。

- タイトル: アジアにおける低炭素開発に向けた機会の探究 (“Exploring Opportunities for Low Carbon Development in Asia”)
- イベントの種類: Side event
- 日時: 2013年6月7日 (金) 13:15-14:45
- 主催: Institute for Global Environmental Strategies (IGES)
- 会場: ドイツ交通省 (Metro)
- プレゼンター: 田村 堅太郎氏 ((公財) 地球環境戦略研究機関 (IGES))、Yuqing Ariel Yu 氏 (IGES)、梅宮知佐氏 (IGES)、Fei Teng 氏 (清華大学)、Kelly Levin 氏 (WRI)、Neha Pahuja 氏 (インド・エネルギー資源研究所 (TERI))

### ■ 概要

#### 1. 田村 堅太郎氏 (IGES) : “Challenges and Opportunities for NAMAs Formulation: Lessons Learnt from Southeast Asia”

- NAMAの形成に取り組む際には、主に1) 技術的な要素、2) 社会主流化の要素、3) 体制構築の要素の3つがあるとして、これらの要素がどのような課題と特長を持っているかについて、アジア諸国 (カンボジア、ラオス、ベトナム、インドネシア、タイ) を事例に紹介がなされた。

#### 2. Yuqing Ariel Yu氏 (IGES) : “Financing Energy Efficiency: China’s Efforts to Reduce National Energy Intensity”

- 第11次五カ年計画及び現在の第12次五カ年計画における中国のエネルギー効率化に関わる予算の仕組みや対策ごとの予算配分の統計データが紹介された。第12次五カ年計画において中国政府が掲げているエネルギー強度目標を達成するためには、第11次計画より、43%増の2,020億ドル強の資金が必要であることが明らかとなった。そのうえで、Yu氏は、中国政府に対して、組織体制の強化、中央・地方政府の能力向上、銀行との連携、あらゆる面での資金の獲得・強化が必要であるとの指摘を行った。

#### 3. 梅宮知佐氏 (IGES) : “Capacity Building on Joint Crediting Mechanism (JCM) and MRV formulation”

- MRVハンドブックの目的、構成、特長等について紹介がなされた。今回のサイドイベ

ントで紹介されたハンドブック（案）は、100個のMRVに関する疑問について回答する形をとった内容であり、今後は、中身をさらに拡充させ、様々なMRVに対応可能で、かつ実経験を反映し実用的で使いやすいマニュアルを作っていくことが伝えられた。

## ■ パネリストからのコメント

### 1. Kelly Levin氏（WRI）

- （田村氏のプレゼンについて）実経験に基づく分析で参考になった。既存のMRVシステムが様々ある中で、どのMRVが考慮されているのかNAMAを決定する上で重要であると思っている。他にはデータ共有、経験のあるスタッフへのアプローチが簡単にできやすい環境づくりなども重要な要素となってくる。

### 2. Fei Teng氏（清華大学）

- （田村氏のプレゼンについて）きちんとした組織体制を構築することは、様々な利害関係者同士が距離を縮めるために有効な手段であり、重要である。
- （Yu氏のプレゼンについて）エネルギー効率に対するファイナンスに関して考察がなされていた。エネルギー対策などは、政府による直接介入・規制がなされ（指令・統制アプローチ）、コスト分配や投資額などは通常明らかになっていないものが多く、今回のプレゼンで示された統計データはそれぞれの対策に係るコストが明らかとなり、非常に有益である。また、扱っている数字についても非常に鋭い指摘がなされている。ただ、1トン当たりの石炭換算におけるエネルギー効率を達成するためのコストが高すぎる気がするが、例えば、ビルのエネルギー効率化は効果が10年、20年と続くことが考慮されているだろうか。
- （梅宮氏のプレゼンについて）アプローチの仕方については共感をもった。なぜならすべて実経験に基づき紹介されているためだ。幾つかのケーススタディは内容が素晴らしく、今後同様の取り組みをする際に、非常に良い参考事例として活用ができると思っている。

### 3. Neha Pahuja氏（インド・エネルギー資源研究所（TERI））

- （田村氏のプレゼンについて）概念的アプローチと、体制的アプローチの両方が紹介されたが、この2つはファイナンスを工面する上で非常に重要な部分である。なぜなら、これらの活動にはいずれも資金が必要であるためだ。
- （MRVマニュアルガイドブックについて）言語の違いなどから、コミュニケーションの問題は常に付きまとう問題であるが、こうした理解力や言葉の定義の明確化を助けるものであり、非常に有益であると思う。

（報告者：OECC 古宮祐子）



これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。  
This is not an official report by the meeting organizer. Do not quote.

サイドイベント傍聴報告については以下をご覧ください。

日本語版

[http://www.mmechanisms.org/relation/details\\_oecc\\_SB38report.html](http://www.mmechanisms.org/relation/details_oecc_SB38report.html)

英語版

[http://www.mmechanisms.org/e/relation/details\\_oecc\\_SB38report.html](http://www.mmechanisms.org/e/relation/details_oecc_SB38report.html)